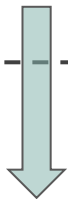


おいしい地域循環「フードサイクルプロジェクト」 （共創事業）

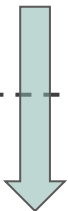
小田急電鉄株式会社

神奈川県座間市において「①生ごみを各家庭で堆肥化、②市の収集車両が収集・運搬、③地元農家に届けて野菜栽培に活用、④収穫した農産物を市民が食して、その生ごみを堆肥化」という「地域循環モデル」をコンセプトとしたプロジェクトです。

課題
や現状



解決策や
アイデア



取組状況
や成果

- 生ごみを削減して、運搬・焼却の二酸化炭素の排出、焼却施設の寿命・燃料等の問題を解決したい。
- ごみ集積所に出している生ごみを資源化するにも分別化が難しい。
- 都市部における農業振興と地産地消を推進し、地元農家と市民の親和も高めたい。

- 各家庭で簡単に生ごみを堆肥にできるバック型コンポストを活用できるのではないかな？
- 自治体が市民の作った堆肥を資源として収集し、地元農家へ運ぶことができないかな？
- 地元農家に運んだ堆肥を、農作物栽培に活かすことはできないかな？
- 自分たちの堆肥を地元農家が活用し、新鮮な野菜を堪能する地産地消を実現できないかな？

新たな地域循環モデルを目指して「フードサイクルプロジェクト」を発進

- 参加市民の約8割が可燃ごみの堆肥化を楽しみ、ごみの削減や資源循環の貢献を喜んでくれた。
- 市の資源ごみ収集事業者の協力で、堆肥を分別収集し農家に運搬することができた。
- できあがった堆肥は、土壌を良くし、通常使用した肥料よりも農作物の成長を促し好評であった。
- できあがった野菜は、参加市民に販売して市民・地元農家も盛況であった。

市民・自治体・地元農家・企業が一体となって、生ごみの削減と食料の新たな地域循環モデルを実現

事例紹介

概要

令和4年7月、農林水産省、神奈川県座間市、小田急電鉄株式会社が連携して、家庭の生ごみを堆肥化、座間市の資源ごみ収集の際に収集し、地元農家にて活用していただく、「フードサイクルプロジェクト」を開始した。

- 小田急電鉄はウェイストマネジメント事業「WOOMS」(ウームス)のアクティベーションとして挑戦。

※WOOMS: 資源・廃棄物の収集・運搬・排出作業の効率化と資源循環を高めるサービスを提供する事業
<https://www.wooms.jp/>

対象: 300世帯 事業期間: 3箇年 ※座間市: 人口約13万人、世帯数約62万世帯

- 農林水産省農村振興局の農山漁村振興交付金(都市農業機能発揮対策)を活用した。
- 家庭で手軽に生ごみを堆肥化できるツールとして、ローカルフードサイクリング株式会社のバック型コンポストを採用した。

事業イメージ



バッグ型コンポストと基材



市民への働きかけ(募集チラシ、座間市広報紙)



実施結果

実施結果

● 参加世帯と生ごみ投入量

令和4,5年度は補助金を活用して参加者の費用負担なし。
令和6年度は基材の費用を負担していただいた。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
参加世帯数	281世帯	261世帯	83世帯
生ごみ投入量	3.9トン	4.0トン	2.0トン
回収時のコンポスト量	1.2t	1.3t	280kg

● 地元農家での使用実績

家庭でできた堆肥は、生産農家に安心してご利用いただくため、不純物の除去、発酵熟成化、成分検査等を行った後に畑に施肥した。品質が良く、じゃがいも栽培では通常の堆肥と比べ1.4倍の量の収穫があり、好評をいただいた。

堆肥量：15.4m³、使用面積：1,980m²

農作物別の内訳

じゃがいも：160m²、さつまいも：160m²、人参：800m²、
大根：160m²、玉ねぎ：840m²

● 参加者の声

熱意ある参加市民も多く、アンケートでもご好評をいただいた。
以下の通り好評で継続してほしい声も多かった。

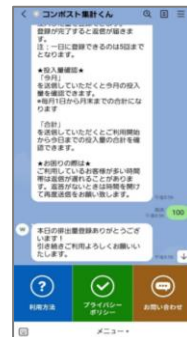
- ・可燃ごみが減ってごみ出しが楽になった 86.5%
- ・「フードロス」「資源循環」に貢献できてうれしかった 84.1%
- ・引き続き活動したい 84.1%（無料であれば62.3%、自費でも継続29.2%）

※令和5年度末のアンケートより

参加者・主催者・農家と活発な交流
堆肥づくりの相談・サポートも



投入量集計や参加者
交流にLINEを活用



回収は麻袋に入れて
バイオマスエネルギーに



野菜の収穫



堆肥づくり体験会



野菜販売会



地域循環モデルの実現と今後の取り組み

市民×農家の地域循環モデルの実現

- 目標の地域循環モデル「フードサイクル」を実現した。
- 参加した市民は、3カ年目では自費での基材購入となったが、コンセプトに賛同した熱意ある参加者が参加を継続してくれた。
- 量的にごみの削減が図られており、座間市の政策に寄与した。
- 良質の堆肥で農作物の収穫が増えるとともに、参加した市民の地元農家への愛着が深まった。
- 家庭ごみの堆肥を生産農家で利用していただくノウハウを得た。
- 注目が広がり、他自治体の見学、マスコミの取材、国際会議での紹介等もあった。
- 取り組みを断念した方のコンポストバッグは、地元保育園の食育や市外の大学等で活用してもらい、資源循環に向けた活動を拡大させた。
- 今回の取り組みなどを通じて、小田急電鉄WOOMSがグッドデザイン金賞を受賞できた。

今後の取り組みに向けて

- 農林水産省としての事業は終了したが、一定の事業価値がある中で継続に向けた検討が進められた。結果、令和7年度から座間市主体の事業として、自主的に継続することとした。
- 事業スキームとしては、座間市から堆肥づくりのノウハウを得た小田急電鉄に業務を委託して運営する。
- 市民のコンポストバッグの購入費用は、座間市の補助金を活用する。
- 市民の有志が自ら取り組みたいとして、座間市の「相互提案型協働事業」に応募、選考された。小田急電鉄がノウハウを伝授し、市のプロジェクトとして持続的な取り組みを目指す。
- 座間市の補助金の対象である電動式生ごみ処理機の生ごみの乾燥残渣も収集して、堆肥化することに挑戦する。

実現した「フードサイクル」



グッドデザイン金賞受賞



持続可能な取り組みとするためのポイント

農家の連携で大切なこと

- 都市農家の農業振興やごみを削減する社会的意義を理解いただく必要がある。
- 堆肥を安心してご利用いただくために、十分な品質管理が必要である。
- 農家と寄り添い、堆肥の運搬や施肥作業等の支援に努めた。
- 農作物の売り上げに貢献する必要がある。できれば野菜のブランド化を目指したい。
- 都市農家と連携する団体や市民とつながる拠点があると取り組みがしやすいと思われる。

堆肥づくりのノウハウ

- 参加市民が楽しく継続して堆肥づくりができるようサポートする。（相談会やコミュニティなど）
- バッグ型コンポスト提供会社にサポートの協力を得た。
- 収集した堆肥を置く場所が必要となる。
- 収集した堆肥には、小さなごみなどの不純物が混じっている場合があり、除去する必要がある。
- 地元農家が安心して利用できる堆肥にするため、定期的に切り返しや保水をして追熟をした。
- 検査機関に成分分析をする必要がある。

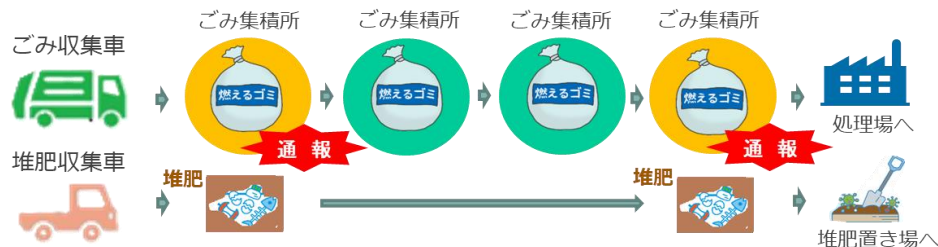
堆肥収集のノウハウ

- 堆肥を収集するため、座間市が委託している資源ごみを収集する組合の協力をいただいた。
- 堆肥を出す際、堆肥である旨を紙で提示していただいた。
※土をごみとして出してはならないルールがあり、識別する必要がある。
- 堆肥を出す際にごみ袋を使用すると、ごみを増やすので、飲料メーカーから廃棄するコーヒー豆を入れる麻袋を受領し活用した。回収した麻袋はバイオマスエネルギーにリサイクルした。
- 大規模に展開する場合でも、小田急電鉄WOOMSが提供
するごみ収集のサポートシステムを活用することで、極
力人手をかけず、効率的に収集することが可能である。

堆肥置き場と切り返し作業



効率的な堆肥収集のイメージ



収集・管理サポートシステム
WOOMS App & Portal

先行のごみ収集車が、車載アプリで堆肥がでることを通報
後行の堆肥収集車が堆肥のあるごみ集積所だけ収集し効率的



- 「フードサイクルプロジェクト」のパッケージ化が完成し、他の自治体でもぜひ取り入れていただきたいと思います。
- ごみの収集業務を効率化し、人手をかけず、家庭からの堆肥を一般的なごみの収集品目にすることを目指したいです。実現できれば、地域の生ごみを無くすことができます。
- 未来に美しい地球を残していくために、一人ひとりが日常生活の中で楽しく生ごみを堆肥にし、それを自治体が後押し、さらに地域の農家や企業が手を取り合うことで、地産地消と資源循環を実現していくことができる共創事業です。座間市で実現できた小さな輪の拠点を日本中に増やして、持続可能な社会を目指す大きな輪になることを望んでいます。

